

○いただいた意見・質問及びその回答

■発言者1

〈質問①〉

市長より冒頭に4つの考えの提示があったが、正直、抽象的すぎて、いつになったら具体的な施策を市長の口から話されるのかをずっと待っている。

現役で働く世代としては、この地域でより良く生きていくために、皆、当たり前のように必死で取り組んでいる。

その中で留萌市として、具体的にどのようなことを打ち出していくかという言葉が欲しいと思っているため、その辺りを伺いたい。

〈回答：市長〉

「豊かで、健康で、笑顔で生きる」とお伝えした中で、「豊か」というのは経済のことであり、賢く縮小というのもそうだが、例えば、行政改革とダイエットは同じで、筋肉だけ落としてぜい肉だけ残すパターンが多い。逆に、きちんとぜい肉を減らして、筋肉を増強したいと考えており、その筋肉というのが経済である。

その経済については、今の留萌でいうと、かずの子を中心に、にしん、石炭とだんだん数が多くなっていて、今は建設業や港湾も中心的になってきている。

まちの経済をこれから活性化するために、一つに的を絞った産業を育てたいと考えている。

具体的な業種については、これからみんなで答えを見つけ出そうとしている。

7月の機構改革において、経済部門を少し強化して、経済活性化プロジェクトのような会議体を立ち上げて、経済対策をやっていく部署を設置した。

この経済活性化プロジェクトを進めて、留萌の経済の強いところ、弱いところを分析し、その強いところを伸ばして、かずの子はかずの子として、それ以外で新しいものを育てていきたいと考えている。

具体的ではないかもしれないが、その作戦会議をするための会議体を立ち上げ、どのような業種に的を絞るかを検討し、それに対して例えば優遇措置をする、チャレンジした人に市で何か支援をするというようなことを順調に進めば、来年あたりから試験的に実施し、強化していきたいと思っている。

「健康」については、医療ばかりだけではなく介護もそうだが、個々の病院や市立病院があり、留萌市だけで1万7千人が暮らしていて、留萌管内では4万人弱がいる。

市立病院はその4万人弱の医療圏の軸となる病院のため、留萌市民だけでなく全体を見なくてはならない。

だが、経営的には赤字というところで非常に痛切に感じている。

市立病院がなくなったら、留萌市だけではなく、留萌管内の医療圏が崩壊してしまうことから、国や道と相談しながら、赤字ではあるが存続できるような対策を考えていきたいと思っている。

例えば、大学や道、国に相談に行くなど段取りはしている状況で、自治体の場合、

少し難しいが、市立病院や水道事業は公営企業ということで総務省が管轄している部分もあることから、先日の東京出張の際に相談をしてきたところである。

今の段階では、具体策がないが、総務省でも留萌市立病院はこの医療圏にとって、必要だという認識はある。

留萌の財政は、１５０～１６０億円くらいあるが、そのうち、１２～１３億円を市立病院にお金を入れており、非常に厳しい。

でも、それをいま言っておかないと市立病院が存続できないため、それも含めながら、医師の確保や賢い縮小をして、ぜい肉を落として筋肉を残すような企業経営を行い、なんとか地域の医療需要を満たすような病院にしていきたい。

「笑顔で」は皆さんの市民生活のそれぞれの張り合いや潤滑油とかそういうところで、町内会やサークル活動などが活発になるように、これから個別に行う懇談会の中でどういうことが望まれているのかを聞いていきたい。

例えば、施設の使用料が高い・安い、町内会が街路灯代を負担していて厳しい等のお金の問題、町内会に加入する人が少なくて、役員のなり手もないなどの課題について、町内会の人とも色々話をして、答えを見つけていきたい。

〈質問②〉

その笑顔とか幸せとか、抽象的な部分をいかに具体的な施策として打ち出すか。

市長が留萌市のリーダーとして、できたら早めに出していただきたいというのが本音である。笑顔をつくるためにはどうするべきかを、改めて考えていただきたい。

〈回答：市長〉

政策内容については、きちんと職員とも相談し、議会に提案して整理していきたいと考えている。

■発言者２

〈質問〉

デマンドタクシーについて、先日の町内回覧でダイヤ変更をしたから使ってくださいという内容の案内があった。

実際、デマンドタクシーの市民認知度はどのくらいなのか。

どういう理由があって、どういう効果を目指してこの事業をやっているのかが、少なくとも私にはみえない。

一方で旭川行きのバスや中央バスの便は半分になり不便にはなっているが、そこそこ使える。

デマンドタクシーで深川に行って、特急ライラック号に乗り換えという手法を希望している人をどこまで拾えているのかなど、市として、どういった調査をしたうえで、この事業が続いているかを具体的に発表できるものがあるのかを伺いたい。

〈回答：地域振興部長〉

細かい数字については、お答えできない部分があるが、このデマンドタクシーは、ＪＲ留萌線が廃線となった際に、ＪＲが走っていて、バスが走っていない時間において、ＪＲの代替交通として、早朝の留萌から深川まで行く便と夜間の深川から留萌まで行くデマンド型のタクシーで夜間については、当初３年間、早朝については、もう少し長くという考えで事業を開始した。

一つ大きな理由として、通学で利用していた学生がおり、通学の需要を満たすために登校の早朝便と下校の夜間便で帰ってこられるようにデマンドタクシーを出していたという経緯がある。

通学だけでなく、早朝便において、都市圏の病院や通勤に使いたいという方もおり、継続している状況。

実人員としては、早朝便で年間８～９人いたと記憶しており、その方々が一定程度恒常的に乗っているという状況。

夜間便は利用していた学生が卒業したこともあり、利用者が少なく、タクシーの運転手不足もあることから、当初の３年間で検証を行い、一定程度の役割を終えたため、今回廃止することになった。

早朝便については、一定程度、都市部の方に行きたいという要望に応えるためにも、時間を見直した。また、乗降場所がこれまで旧留萌駅の１か所のみとなっていたが、もう少し乗りやすいように市内の複数個所に止まるよう変更をさせていただいた。

ご指摘のとおり、地域公共交通は運転手不足も含めて、この地域において、非常に厳しい状況となっている。

その中でも、なんとか交通事業者との連携を深めながら、交通事業者だけに頼るのではなく、市としてもしっかりと公共交通への支援も含めて進めている状況である。

〈意見〉

これからどういう風に公共交通を守っていくのか。実際に公共交通の部分といっても、皆さん便利だから車を使っている。強制的に車から公共交通を使いなさいというのは時代的に無理がある。

留萌だけではなく、交通系解説 YouTuber が色々と指摘している。例えば、UberTaxi のようなものを組み合わせるなど、タクシー事業者との関係もあり難しい面もあると思うが、もう少し市民からの要望を聞いてくれたら使う気になると思う。

例えば、冬場は自分で車を運転するより公共交通使った方が良いと促したり、こちら側を引き込めるよう、市民のアイデアや色々なことを提言している YouTuber のアイデアを取り入れるなど、幅広いかたちで、より使い勝手が良くて、使う人が増えるような施策をぜひ取り入れてほしい。

〈回答：市長〉

今後の公共交通に対する意見として受け止めさせていただく。

タクシーを乗り合いにするとか、タクシーという名前をつけると、制限かかる可能性もあり、他自治体では、小型バスを使って循環するような実験をしているところも

ある。今後、公共交通の在り方を議論する中で、車社会であるが、車を持ってない方や高齢になって車を手放したという方もいることから、そういう方々を含めて、皆さんが利用しやすいような形態を常に模索していきたいと思っている。

■発言者3

神社下から十字街に降りていくとパチンコ屋、デパートなどのお店80%が営業しておらず、空き家になっており、とにかく汚い。

まちが汚かったら、人を呼んでも来ないと思う。温水プールぶるもの周りは草だらけで、そんなにお金をかけずとも、やることはいっぱいあると思う。その辺からまずは考えた方が良い。

また、道の駅について、出来てしまったからしょうがないが、留萌は海のまちであり、高規格道路がせっかく出来たのだから、高規格道路から開通予定の見晴通を通して、ゴールデンビーチに行つて黄金岬を通して、帰りに道の駅に寄つて買い物をして留萌北部の方に行くなど、しっかりと動線を考えた方が良い。

ただ、道の駅を建てるのではなく、まず留萌のまちを考えて、十字街の方まで人が通るようにもう少し考えてほしい。

〈回答：市長〉

中心街の空き店舗や雑草については、大きい店舗や個々の店舗のすべてを市の予算で壊すということは不可能だが、綺麗な通りをつくりたいと思っている。

雑草については、国道・道道・市道において生い茂っている箇所があり、住宅地においても民有地等の土地も含めて全部市の予算だけでは解決できないことのため、町内会の人とも相談しながら進めていきたいと考えている。

大きな空き店舗については、旧デパートや旧ボウリング場の跡、ホテルなども法律的にどうやったら解決できるのかを市でも悩んで取り組んでいるところだが、諦めずに色々なところと相談して、法的な解決というのを進めていきたいと考えている。

また、道の駅を通じた周遊性については、特にこれから観光客がたくさん入ってくると食べ物や宿泊など含めて、留萌のおもてなしの力が試されると思っている。

道の駅だけで満足してもらうのではなく、当然まちなかに誘導したり、海や夕陽をみてもらったりと絡めて観光的な施策をつくっていききたいと考えている。

冬については、夏と比べて観光客は激減することから、アクティビティまでとはいわず、雪遊びレベルの方も含めて、みんなが外に出て遊んで楽しんでもらい、留萌ファンになるような関係人口を増やしていきたい。目的は来たお客さんと呼び寄せ、食べ物を楽しんでもらって経済的消費を促進し、留萌全体が潤っていくことに繋がるように取り組んでいきたいと思っている。

■発言者4

前市長の時に話が出ていた温浴施設について、留萌市で合宿事業がある中でお風呂の問題はずっと気になっていた部分であり、神居岩温泉もあるが、そこだけで対応できるのかなと思っている。キャンプ場や海があるまちで温浴施設がないのはすごく残

念な気持ちになっている。

維持費などお金がかかると思うが、留萌市として今後どのように考えているのかお聞きしたい。

〈回答：市長〉

温浴施設について、道の駅の前にある道路を挟んだところに民間企業の方で建てようという考えがある。

昨年にある程度の構想を立てて、取り組もうというところまで来ているが、市長が変わったことや道の駅の整備の結果で観光客の入込みがどう動いていくのかという見極めもある。

当該企業と話しているが、民間企業のビジネスとしての取り組みのため、その動向をみて、採算性もみながら決断していきたいと聞いている。

決して、凍結したとか辞めたとかではなく、状況をみて、今後、相談していこうと思っている。

民間企業が運営するということで、整備面で市として協力できるところはしていきたいと思っているが、あくまで公共で建てるわけではないため、連携協定を基に民間の施設として成り立つような支援をしていきたいと考えている。

■発言者5

新交流複合施設について、現状、お金がかかりすぎるということで一旦白紙と聞いている。今後の方向性について、差し支えない範囲でお聞きしたい。

〈回答：市長〉

旧留萌駅の跡に現在建設予定の複合施設について、道の駅に隣接し、賑わいや交流の施設として、老朽化が厳しい市役所庁舎や公民館、交通のターミナルのようなものを含んだ複合施設として整備したらどうかということで、市民会議を通じて、内容を整理し、基本計画を進めているところである。

当初は70数億円だったが、資材高騰などにより収まりそうに無い。公民館だと国の補助金などがあるが、市役所庁舎は補助金等がほとんどなく、自腹に近いようなかたちで建てなければならない。

先ほどの財政状況の説明時にお伝えしたとおり、ごみ処理施設や下水道管の更新など、他にもお金がかかってくるということで、財政が健全な状態で借金をし、健全に返済するためにも70数億円という事業費は難しいと判断した。

市議会からも3月と6月の議会においても質問があったが、今後については、今まで積み重ねた案のほかに時間をいただきながら、現実的なプランを練り直したい。

具体的にどうするというのは、現時点ではないが、市役所内部でいくつか案を積み上げて、これまで議論してきた案も含めて、市民会議の方々や議会にも説明をして、案を一つにまとめていきたいと思っている。